

営農ウィークリーNEWS

米検査で多かった白未熟粒の対策

白未熟粒とは



背白粒

乳白粒

白未熟粒とは、玄米の胚乳内のデンプン粒の蓄積が不良で粒間に隙間ができ、光が乱反射して白く見えるものです。主に、出穂後 20 日間の平均気温が 27℃以上の高温条件や、または低日照で発生すると言われています。

今年の8月は猛暑となり、平均気温は 30.5℃(記録的な高温障害の 2010 年より高い)で、9月の前半も 28℃以上の日が多く、「キヌヒカリ」や「コシヒカリ」をはじめ「ヒノヒカリ」でも白未熟粒が多く見られました。

未熟粒の発生は栽培面で軽減することも可能です。

玄米は、葉において光合成で生産された糖類をデンプンの形で蓄えるところです。順調な光合成を確保するためには、健全な根からの十分な吸水が必要です。吸水が不十分だと、気孔が閉じて、葉温が上がり、光合成の機能が低下します。正常な玄米生産には、十分な根張りと肥効を確保するための土づくりが欠かせません。

また、夜間のかけ流しも、稲株や根の温度低下により高温障害に有効とされています。

根張り充実のための対策

- 1 堆肥や稲わらすき込みなど有機物補給による土づくり(稲わらは秋にすき込む)。
- 2 ケイ酸加里を元肥に施用(40~60kg/10a)。ケイ酸加里は流亡しにくい肥料です。
- 3 とれ太郎元肥施用(80~100kg/10a)。
- 4 発根促進のためフジワン粒剤施用。育苗箱(25~50g/箱)、出穂10~20日前(4kg/10a)。

秋耕から次期作の準備の始まりです。

TAC information

野菜のアブラムシに注意！！



カブについたアブラムシ

10月は好天に恵まれ、害虫の発生も増えてきています。特にアブラムシは、ハクサイやキャベツなどの結球野菜に入ると防除が難しくなります。

畑をよく観察して、発生初期に防除してください。前日まで使用できるウララDFのほか、3日前まで使用可能なトランスフォームフロアブル、ネオニコチノイド系のスタークル顆粒水溶剤、アクタラ顆粒水溶剤などがあります。